□　吹奏楽

中　橋　愛　生

コロナ下での活動も３年目で多くの演奏会やイベントの再開が見られたが，公的機関が関わるイベントは慎重な姿勢が強く，2019年以前と全く同じようになるにはまだ時間がかかりそうだ。温度差はコロナ対策のみではない。2023年度より本格施行とされている学校部活動の地域移行についても，厳格に進めている自治体がある一方，文科省が見直しを検討という報道もあった。この数年，吹奏楽を取り巻く環境は流動的であり，統一的な活動の規範が整うのはまだ先となるだろう。

■国内団体の動き

プロ各団は定期公演や地方ツアーを再開。東京佼成woは３月22日に旧体制での最後の公演として三名の指揮者による特別演奏会を実施，立正佼成会から独立し一般社団法人となり初の定期演奏会を４月25日になかのZERO大ホールで開催した。

新設団体もあり，シンフォニック・ジャズを専門とするプロ吹奏楽団「Wind Roots」が３月25日にデビュー公演，12月20日には第１回レギュラーコンサートを開催。12月１日には埼玉を拠点とするプロとして「ウインドオーケストラ・プリムラ」が旗揚げ公演。珍しい形態として，大学が運営する「プロと学生の混成」による「名古屋芸術大学ウインドシンフォニー」が１月７日に第１回定期演奏会。また，３月13日には秋田県湯沢市ゆかりの音楽家を中心にプロ・社会人・学生が一緒に演奏する行政主導企画「ウインドアンサンブルゆざわ」がデビュー公演。９月23日には「埼玉県吹奏楽連盟東部支部吹奏楽団」創設が発表された。こうした団体は吹奏楽の地域活動化の動きに反応したものといえよう。新設団体がある一方，３月末をもって京都市消防音楽隊が廃止された。

■イベント

全日本吹奏楽コンクールや全日本アンサンブル・コンテストをはじめ，全日本ブラスシンフォニーコンクール，日本管楽合奏コンテスト，全国ポピュラーステージ吹奏楽コンクールといったコンクール，ブラス・ジャンボリー，いしかわ・金沢～風と緑の楽都音楽祭，ブラスエキスポ，日本吹奏楽指導者クリニックといったイベントが実演にて開催されており，恒例行事の多くがコロナ以前に戻りつつある。だが，出演予定団体が直前で辞退したりメンバーの欠けた状態で演奏するというケースも少なくなく，シンフォニックジャズ＆ポップスコンテスト全国大会は実演審査と録音審査を同時に行う，浜松吹奏楽大会（全日本高校選抜吹奏楽大会／全国中学生交流コンサート）はオンライン（事前収録動画の配信）での実施としており，完全に脱したわけではない。実演開催が予定されていた毎年恒例の未出版作品コンサート「響宴」は公演を中止しCD制作にて発表という形をとっている。日本ジャズ協会21の主催による「全日本ポップス＆ジャズバンドグランプリ大会」は中止されたものの，同主催の「東京国際音楽祭2022《大編成バンドの祭典！》」は開催され，THE WIND WAVEなどの吹奏楽団体が出演した。

８月11日から13日にかけて第１回長崎国際音楽フェスティバル。これは今後３年に一度の頻度で開催され，海外からのバンドも参加する予定。８月１日にはテレビ朝日「題名のない音楽会」主催の７人制吹奏楽「ブリーズバンド」全国大会。単発企画であろうが，新しい形の吹奏楽のコンペティションだった。

■海外との交流

台湾では，10月10日に双十節での祝賀式典に京都橘高校マーチングバンドが海外楽団としては初めて招待され演奏，12月開催の嘉義国際吹奏楽祭で専修大学玉名高校が招待されて演奏を行った。ヨーロッパでは，７月末にオランダのケルクラーデで開催された世界音楽コンクール（WMC）のマーチング部門に沖縄の西原高校が出場し優勝，12月末に全日本高等学校ユース選抜吹奏楽団がザルツブルクとウィーンで公演を行っている。自衛隊のバンドは，５月上旬にジブチ共和国で陸上自衛隊中央音楽隊が拠点10周年記念行事に参加し一週間かけ各国の拠点で演奏会を行い，７月１日から３日にかけて行われたフランス・アルベールヴィル国際軍楽祭には航空自衛隊航空中央音楽隊が参加し，11月３日から５日間にわたってオマーンの国立ロイヤルオペラハウスで開催されたオマーン軍楽祭には陸上自衛隊西部方面音楽隊が参加した。特に陸上自衛隊西部方面音楽隊の参加は，方面隊としては初の海外演奏である。

海外からの来日は，ソロやアンサンブルは徐々に戻りつつある傾向。バンドとしては11月下旬に英国近衛軍楽隊コールドストリーム・ガーズ・バンドがツアーを行い日本各地でアマチュア吹奏楽団と共演したほか，自衛隊音楽まつり（11月18･19日）のためにはパキスタン陸軍軍楽隊・パプアニューギニア軍軍楽隊が来日した。

珍しい形態では，３月31日に埼玉県加須市で地元アマチュア・バンドの実演と海外７団体（ハワイ，マレーシア，中国河北省，ドイツ，台湾，シンガポール，香港）オンライン出演による国際音楽祭が開かれている。

このように海外交流は皆無ではないものの，難しい状況は続いている。要因としてはコロナもあるが，ロシアによるウクライナ侵攻とそれに伴う景気変動（航空機の燃料費高騰）もある。毎年恒例であった１月１日のアメリカでのローズ・パレードへの団体派遣は前回辞退した聖ウルスラ学院英智高校が招待されたが今回も辞退，代わりに招待された岐阜商業高等学校も辞退したため日本からの参加は無しだった。７月にプラハで開催されたWASBE（世界吹奏楽協会カンファレンス）と12月にシカゴで開催されたミッドウェスト・クリニックにも日本からの参加団体は無し。７月にはフィルハーモニックウインズ大阪がWMCに招待されヨーロッパ・ツアーを行う予定だったがウクライナ情勢のため中止。当初は2021年開催予定で延期とされていた「第19回ワールド・サクソフォーン・コングレス＆フェスティバル倉敷」は開催辞退となった。

■その他の動向

５月２日にNHK-FMで「今日は一日"吹奏楽"三昧」が放送，６月４日にニッポン放送PODCASTで「It’s A Wonderful Wind」（東京佼成wo）開始，10月７日にFM世田谷で「おしゃれ吹奏楽部」（提供：ロケットミュージック社）放送開始，通年取材の日本テレビ「笑ってコラえて！音楽祭 吹奏楽の旅」放送，映画「20歳のソウル」（モデル：市立船橋高校吹奏楽部）と「異動辞令は音楽隊!」（題材：警察音楽隊）公開と，メディアへの露出が目立った。一方，2015年から続いたインターネットラジオOTTAVA「Bravo Brass」は放送終了。

３月６日にフランスで行われた第７回クー・ド・ヴァン国際交響吹奏楽作曲コンクールで山口哲人が第３位・中嶋達郎が入賞。11月27日に本選が開催された第１回福島市・古関裕而作曲コンクールで佐藤信人が第一位受賞（審査員：池辺晋一郎ほか５名の作曲家，飯森範親指揮のシエナwoで演奏審査）。日本吹奏楽指導者協会のJBA下谷賞が改訂され自薦または他薦により応募された一年以内に発表もしくは出版された楽曲から選ばれることになるなど，創作方面も新たな動きが感じられる。